



新年度を新たな息吹で前進

校長 中川 浩二

4月らしい春の陽気が心地よい季節となりました。入学、進級、新社会人、組織では人の入れ替わりなど、周囲の環境が大きく変わる新年度を迎えました。人それぞれに新たな息吹につつまれ、「前へ進もう！」と感じるのがこの4月当初ではないでしょうか。

はじめにご挨拶をさせていただきます。中川浩二と申します。落ち着いた地域に温かく育まれた、すばらしい児童のもとで小田小学校の校長に就任したことを誇りに思っております。前任校は、本校と同じ金沢区にある西金沢学園で、小学部1年生から中学部9年生（中学3年生）までが一つの校舎で共に学ぶ施設一体型の義務教育学校です。同校では、小学部を担当しながら9年間を見据えた教育活動に携わってきました。また教職に就く前は社会人として、東京国際空港（羽田）などで空の安全を守る仕事に携わってきました。これらの経験も活かしながら、今まで培ってきた本校のよき伝統を継承しつつ児童の健全育成のための教育活動を推進していきたいと考えています。保護者のみなさま、地域のみなさま、どうぞよろしくお願いたします。

さて、新1年生88名を迎えて、全児童600名となる小田小学校の令和3年度がスタートしました。1年生のみなさんは入学、2年生～6年生のみなさんは進級、おめでとうございます。児童のみなさんは、「わくわく」しながら入学式や始業式を迎えたことと思います。「わくわく」することは大切なことです。「新たな気持ち」や「やる気」につながります。ぜひ、この「わくわく」を持続させながら、4月のよいスタートをきれるようにがんばってほしいです。そして一日一日を大切に過ごし一年間で大きく成長されることを職員一同、願っています。新年度の大切な時期となりますので、保護者のみなさまも普段以上にお子さんの様子を見守りながら励ましてください。また、不安な点がありましたら遠慮なく学校にご相談ください。

ところで、一年前のことを思い出される方もおられるとお察しします。横浜市立学校では感染症対策で昨年3月はほぼ臨時休校、4月は入学式や始業式のみ登校で5月まで臨時休校となりました。6月より学校が段階的に再開され「新しい生活様式」による教育活動となり、いろいろな苦勞を乗り越えてきたと思います。うれしいことに今年度は通常どおりにスタートし、ほっとしています。今後の動向を注視するとともに感染症対策を講じながら、児童の心のケアを大切に、安全・安心な教育活動に努めていきます。ご家庭では引き続きマスク着用や健康観察などのご協力をお願いいたします。

前出の「新しい生活様式」は、見方を変えてプラス思考に捉えれば、さまざまな環境に対して柔軟に適応するたくましい力～レジリエンス（適応力）～を育成することにつながっています。困難な状況の中でも自ら人生を切りひらいていくためには、このレジリエンス（適応力）がますます求められています。もちろん本校でも育成していきたい大切な力の一つと考えています。

令和3年度、全職員42名（令和3年4月7日現在）の力を合わせて効果的かつ充実した教育活動に取り組んでいきます。みなさまのご理解とご協力をよろしくお願いたします。